

巻頭言

助け合いの生活支援を広げる意味

ページ

3

清水 肇子 (しみず・けいこ)

公益財団法人さわやか福祉財団 理事長
学習院大学ドイツ文学科卒業。三菱銀行の支店及び国際企画部、シティバンクのアシスタントバイスプレジデントを経て、キャリアコンサルタントとして独立。並行してさわやか福祉財団の創立時からボランティアで参画し、2014年より現職。住民主体の地域づくり、個を活かす多様性のある働き方等に関する国や自治体の委員を歴任、全国で講演中。科学技術振興機構社会技術研究開発センター主監、国際科学振興財団評議員等。ダイヤ高齢社会研究財団理事。

フォーカス
高齢社会

在宅要介護高齢者のエンド・オブ・ライフ期のケアマネジメント

— 最期まで在宅療養を望む高齢者の願いを叶えるために —

4

金田 明子 (かねだ・あきこ)

横浜市立大学 医学部看護学科 助教
看護学博士、老人看護専門看護師、介護支援専門員、社会福祉主事任用資格。急性期病院や在宅看護の場（訪問看護事業所・居宅介護通所事業所・介護事業所など）での実践と管理を経て、2019年より現職。

Dia
Report

40歳以降に結婚した人の9割が「結婚してよかった」

— 「40代～60代の結婚等に関する調査」結果より —

8

森 義博 (もり・よしひろ)

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長・シニアアドバイザー
一橋大学経済学部卒。1981年明治生命保険（当時）入社。2001年から同グループの研究所で少子高齢化問題、年金・介護保険制度等を研究後、2015年から当財団。著作は「想定寿命80歳で老後資金は大丈夫か」（本誌2022年深秋号）、「就労者にとっての育児と介護」（日本FP協会『FPジャーナル』2021年4月号）他。

財団
研究紹介高齢者福祉施設における
COVID-19感染者確認後の迅速な初動対応の重要性

12

上原 桃美 (うえはら・ももみ)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 博士研究員
桜美林大学大学院老年学研究科修了（老年学博士）。2013年入団以降、「生きがい就業の介護予防効果」「シルバー人材センター会員の効果的な健康管理」の共同研究事業等を担当。2022年からは、高齢者福祉施設を対象に防災・減災意識の向上やCOVID-19の感染対応に関するテーマも担当。

Dia
Information

14

表紙撮影：吉羽健二郎氏「花園溪谷（茨城県北茨城市）」（2017年11月撮影）

※吉羽氏は、千葉県我孫子市で写真愛好家を対象に「448SCHOOL」という写真教室をご夫婦で運営されています。